

# 福音の園だより

【第十二号】二〇〇五年十二月五日発行

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

Fax 049・230・1112

## 美味しかった手打ちそば昼食会

市役所向いのそば店店主・Sさん一家総出による手打ちそば昼食会が十一月三十日(水)に行われました。一階食堂で朝九時スタート。Sさんのそば打ちの脇では三台の石臼による初めてのそば挽きを利用者さんと体験いたしました。花菜園で収穫したそば五一〇グラムと田舎から取り寄せたそばの実を石臼に入れて回すとそば粉になって出てきたときには歓声が上がりました。百丈さんの「盛りそばと天ぷら」

副菜として花菜園で摘み取った食用菊「なます」を皆さんで美味しくいただきました。当日は、市内中学生の社会体験学習で来園したエプロン姿のY君もお手伝い下さり、楽しい一日でした。

## 川越喜多院・菊花展に出掛けて

喜多院境内で開催中の菊花展に参りました。一階利用者さん外出日はあいにくの曇り空のため、後日に変更と話し合っていたところ十一時頃から陽が出てきたため、昼食を済ませた午後一時半に出発。昔、大輪菊を咲かせたという方もおられ見事な菊鉢の数々を楽しめました。

翌日の二階利用者さん外出日は朝から快晴。ホームドクターの回診後に出発しようとしたら、「私は目が見えないから行っても…」と遠慮されるので、「Tさん、菊の花の匂いを嗅いできましょう。喜多院本殿のお香の匂いや釣鐘の音を聴いてきましょう」とお誘いしたら、「そうまでおっしゃって下さるのなら」と快諾。全員で紅葉の一日を楽しむことができました。(ホーム長 杉澤卓巳)

## ご家族の声

### あつという間の一年が過ぎて

昨年の十一月三日、初めて福音の園に伺った日からあつという間の一年が過ぎてしまいました。今はホームの皆様の心からの介護のもと、義母は家にいた以上に元気で過ごしており、心から感謝申し上げます。入所が決まってから、皮膚病にかかり、一ヶ月も入所が延びた事。あの時、私が必要になり入所を断られたらどうしようと考えた事もあり、そんな時「待っていますから、医者からの許可が出たら大丈夫ですよ」とホーム長さんのお言葉に励まされ、受話器の前で何度も頭を下げていた事を思い出しております。

皆様にお願ひして、穏やかな義母の顔を見て帰るそんな時、いつも介護の大変さを知りながら、それでいいのか、自分との葛藤が続いております。最近はその時間を無駄にする事なく、他の事に向け努力してまいりたいと思っております。まだ始まったばかりの介護の日々、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。(Y・M)

## ボランティアの声

### 少し大人に近づいた気がしました

T・I (さいたま市・中学三年)

僕は、初めてボランティア活動を体験しました。ボランティアをやるうと思っただけは、ほんのささいな事でした。今現在僕は、高校受験が間にせまる受験生の立場に立っています。なので、高校に入る前に何か社会の役に立つことがしたいと思ひ、この活動に興味を持ちました。そこで、祖母が働いているここ、福音の園にお邪魔することになりました。初めは戸惑いも多く、祖母の後ろについているだけで何も役に立てないと思ひました。しかし、職員の方々や利用者さんのお心遣いとお声援のおかげで無事二日間を終えることができました。そして僕はこの活動をきっかけに少し大人に近づいた気がしました。福音の園の皆さん、二日間どうもありがとうございました。

## 園芸療法 参加者の声

### 印象に残った施設全体の雰囲気の明るさ

先日は、園芸福祉という貴重な体験をさせていただきました。施設を見学し、また園芸福祉活動を体験する中で強く印象に残ることがありましたので感想を述べさせていただきます。

印象に残ったのが、施設全体の雰囲気です。「家族」のもつそれに近いかもしれません。以前、特養ホームで福祉研修を受けたことがあるのですが、その施設の雰囲気とは明らかに違いがありました。この違いは何かと考えると、この違いが「希望への支援」の実践結果なのだろう、と思ひます。利用者の方一人ひとりが尊重され、精神的に自立した生活をしている。利用者の方が生き活きとし、一緒にスタッフも生き活きとし、そして施設そのものが生き活きとしたものになっているような印象を受けました。(M・K)